

# 日本海沿岸地域等への廃ポリタンクの大量漂着への対応状況について

平成 21 年 3 月  
環境省地球環境局

## 1. 廃ポリタンクの大量漂着の状況

平成 12 年以降、毎年のように冬季において日本海沿岸地域等に廃ポリタンクの大量漂着が確認されている。廃ポリタンクの一部には、中に液体物質が残っているものがあり、分析した結果、塩酸が検出された例がある。また、廃ポリタンクには、他に比してハングル表記のものが多数見られる。

環境省では、関係道府県の協力を得て、漂着状況の把握、事故防止のための注意喚起を行うとともに、外務省と連携して、韓国政府に対して実態把握、原因究明、漂着ゴミを減らすための更なる努力等の要請を行っています。

## 2. これまでの廃ポリタンクの漂着状況

平成 12 年： 約 38,000 個  
平成 13 年： 約 11,000 個  
平成 14 年： 約 13,000 個  
平成 15 年： 約 29,000 個  
平成 16 年： 約 12,000 個  
平成 17 年： 約 14,000 個  
平成 18 年： 約 9,300 個  
平成 19 年： 未確認  
平成 20 年： 約 43,000 個  
平成 21 年： 約 17,000 個

※ 平成 20 年以降は環境省調査、平成 19 年以前は海上保安庁調査

## 3. 韓国との協議の状況（平成 20 年以降）

### (1) 我が国からの申入れ（平成 20 年 2 月から）

我が国としては、韓国政府に対し、累次にわたり外交ルートや二国間協議等の場を通じて、本件の実態把握、原因究明を要請するとともに、廃ポリタンクの漂着防止のための実効的な措置を講ずるよう求めている。

### (2) 韓国側の反応（平成 20 年 3 月）

累次の申入れの結果、韓国政府から、本件を重大に受け止め、このような事態の発生を遺憾に思っている、原因究明調査、再発防止のためのガイダンスの作成、啓蒙活動、海洋ゴミ回収・管理などの対応をとっている旨の回答があった。

(3) 日韓首脳会談（日韓共同プレス発表）（平成20年4月21日）

両首脳は、「きれいな空気、きれいで豊かな海」を共に守るために、黄砂等の大気汚染対策、海洋汚染対策における地域協力の枠組みにおいて、両国の連携を強化することで一致。

(4) 第11回日韓環境保護協力合同委員会（平成20年6月20日）

我が方は、改めて廃ポリタンク漂着防止を求めた。また、4月21日の共同プレス発表のフォローアップとして、「きれいで豊かな海」を共に守るための協力の方途につき具体的な議論を行うことを提案。

韓国側から、海洋ゴミをなくすための様々な対策（廃ポリタンク削減のための指導監督制度の強化、海洋ゴミモニタリングの拡大・強化、全国4大河川流域海洋ゴミ責任管理制度の強化、漁民・国民向け広報の強化）の説明があった。

(5) 海洋ゴミ問題に関する非公式協議（平成20年7月17日）

環境省地球環境局環境保全対策課長が訪韓し、韓国の国土海洋部海洋保全課長及び農林水産食品部養殖課長と、海洋ゴミ問題に関する非公式協議を行い、最近の対応状況等について説明を求めた。

韓国側から、原因については未だ明らかではないものの、漁業関係者への啓発活動・指導強化、河川流域での管理制度の強化など、再発防止につながると考えられる様々な対策を積極的に行っている旨の説明があった。

今後引き続き、機会を捉えて非公式に意見交換を続けていくこととされた。

(6) TEMM10における日韓環境大臣バイ会談（平成20年12月1日）

齊藤大臣より、漂流・漂着ゴミ問題への韓国の一層の取組強化を要請し、李長官より共感が示された。

(7) 日韓首脳会談（平成21年1月12日）

麻生総理より、近く「きれいで豊かな海」のための実務者協議が開催されることを歓迎するとともに、漂着ゴミ削減のための協力が具体化することを期待したい旨述べた。

(8) きれいで豊かな海を共に守るための日韓実務協議（平成21年2月6日）

両国の外交、環境、海洋、水産当局者、地方自治体関係者、研究者などが出席し、協議において、日韓両国が、きれいで豊かな海を共に守るための協力を強化する方途につき建設的な意見交換を行った。その中で、日本側より廃ポリタンク漂着問題の深刻な状況を説明し、専門的な分析もふまえ、この問題の原因及び対策につき突っ込んだ意見交換を行った。

日韓両国は、今後も廃ポリタンク漂着問題の解消を含め、きれいで豊かな海を共に守るために一層積極的に協力していくことを確認した。